

# "Extreme poverty can be ended, not in the time of our grandchildren, but our time."

Source: Jeffrey D. Sachs, *The End of Poverty*



ミレニアムベレッジ(マラウイ) 写真提供:ミレニアム プロミス

極度の貧困は、根絶できるはずだ。私たちの孫の世代ではなく、私たちの世代のうちに。

黒川 多くの先進国政府が貧困に苦しむ国を援助したいと思っても何が具体的に必要なのかわからないことが多いです。支援策を考えるには、やはりそれぞれの地域に実際に足を運び、どのような政策が実施され、インフラがどのような状況なのかをよく知ったうえでないと難しいのでは、と思います。

## すべてのエコノミストは、臨床医であるべき。

サックス そうですね。現在の生産量はどのくらいですか？  
米倉 生産は年間三千万張りです。これでも十分ではなく、需要を満たすにはもっと必要です。いま、当社はサウジアラビアで世界最大級の石油精製と石油化学の統合コンプレックス事業計画を進めているところですが、ここで「オリセツト® ネット」の原料となる合成樹脂を生産することを考えています。



エチオピア 写真提供:ミレニアム プロミス



## 貧困の撲滅を可能にするアイデア。

黒川 サックス教授は「ミレニアム開発目標」の達成に精力的に取り組んでこられました。さらにNPO法人「ミレニアムプロミス」を自ら立上げ、その代表を務めておられます。現在取り組んでいる「ミレニアムベレッジプロジェクト」についてはアフリカの多くの指導者からその成果を高く評価されており、日本政府も大きなサポートを行っています。まずはその内容についてお聞かせください。

現代社会が抱える深刻な問題のひとつが貧困です。今や世界総人口のおよそ五分の二が、「一日一ドル未満で生活する」極度の貧困<sup>※1</sup>にあると言われています。このほど、国際連合が進める「ミレニアム開発目標」<sup>※2</sup>の達成に向け、経済学者としての手腕を発揮、実践的な活動に取り組んでいる米国のコロンビア大学地球研究所所長ジェフリー・サックス教授が来日。内閣特別顧問で、国際科学政策にも造詣が深い黒川清氏のコーディネートにより、住友化学社長の米倉弘昌との座談会が行われました。

貧困に苦しむ人々の多くは農村部に住んでいます。疾病を克服し、農作物の生産性を向上させ、市場での売買を可能とし、子供を学校に通わせるための手助けを私達がすれば、貧困を脱出する大きな突破口になります。

セツト® ネット<sup>®</sup>は殺虫剤が練りこんであるため、洗っても五年以上効果が持続するというものです。マラリア予防に役立つだけでなく、タンザニアの蚊帳メーカーに技術を無償供与し、能力増強と雇用拡大による地域の経済活性化にも取り組んでいます。米倉さん、ここまでについた経緯を教えてください。

米倉 現在、世界では年間3億人以上がマラリアを発症し、100万人以上が亡くなっています。「オリセツト® ネット」はその深刻な状況を少しでも改善したいと考えて当社が総合化学メーカーとして持つ、樹脂と殺虫剤のノウハウを融合し開発しました。国連などの要請に応じて、複数の海外拠点での量産体制を構築し、現在、タンザニアでは新たな工場を建設中です。これにより現地の雇用数を二千二百人に拡大できる見込みです。

サックス 「オリセツト® ネット」は簡単にマラリア予防ができるだけでなく安価で経済的です。これにより、マラリアをコントロールできる可能性が格段に増加しました。

黒川 イノベーションの理想的な成功例ですね。新製品が人々の生活を守り幸

サックス ミレニアムプロミスはまさにすべての患者さんが同じ病気を患っているわけではないように、すべての経済圏が同じ問題を抱えているわけではあり

ません。ですから、よい診断をするにはちゃんと対話することが重要になってきます。ここでは何をすべきかと。

黒川 まさに、医師と患者の臨床対話ですね。



完成した小学校 タンザニア 写真提供:ワールド・ビジョン



ケニア 写真提供:ワールド・ビジョン



オリセツト® ネット



タンザニアの縫製工場

## 今こそ、政府と民間の連携を。

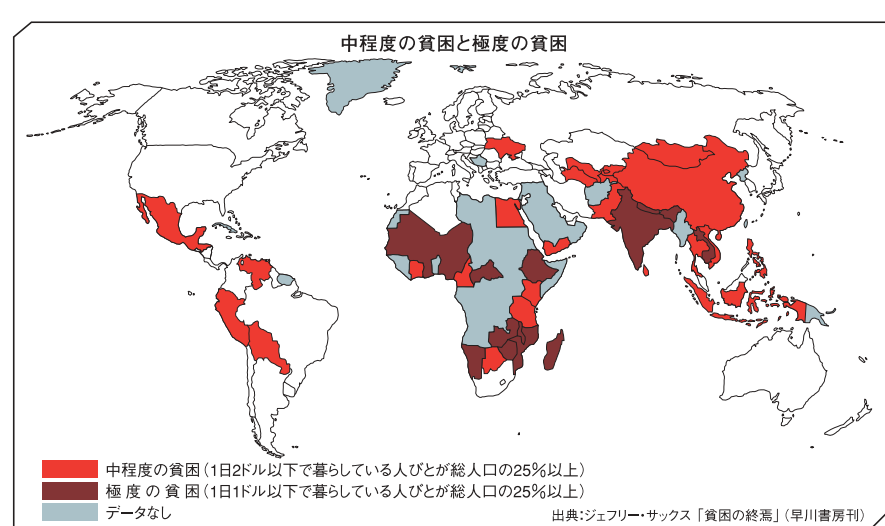
米倉 アフリカの課題を考えた時に、私達にできることは、人々が自力で経済や産業を発展させることを支援することだと思ひ、小学校の建設プロジェクトにも着手しました。経済や産業を発展させていく方法を自ら学ぶには、おそらく時間がかかるでしょうが真の自立のために、今始めなくてはいけないと思ひました。サックス 彼らもそれを強く望んでいると思ひます。

黒川 若い人たちに支援活動に関わってもらえるようにもしたいですね。夏休みなどに一緒に働きたい、参加したいという日本の若い人たちがたくさんいます。サックス 自分達の持つ技術を支援にも役

立てたいという思いは、持続させなければいけないですね。私も引き続き、貧困問題について企業として何ができるかを考え実行していきたいと思っています。

サックス 素晴らしいアイデアをたくさん持った日本の民間企業にぜひ今後積極的に貧困問題に取り組んでいただきたい。

黒川 私はすべての人に、世界が直面するこの大きな問題を知ってほしいと思います。より良い未来のために何ができるのかを、私達は、目を開いて考え続けていかなければいけません。そう、今こそ。



## 座談会



米倉弘昌 Hiromasa Yonekura  
1960年住友化学工業(現 住友化学)に入社。2000年に社長就任。日本経済団体連合会副会長(経済連携推進委員会委員長、ヨーロッパ地域委員会委員長)。



ジェフリー・サックス Jeffrey Sachs  
経済学者で国際開発の第一人者。1980年ハーバード大学博士号取得後、1984年には29歳の若さで教授となる。現在は、コロンビア大学地球研究所所長。また途上国政府や各国国際機関のアドバイザーをつとめており、ミレニアム・プロジェクトにおいては、コフィ・アナン事務総長(当時)の依頼を受け、プロジェクトのディレクターをつとめた。2年前に出版された「The End of Poverty」は日本語にも訳され、「貧困の終焉」多くの人に読まれている。



黒川 清 Kiyoshi Kurokawa  
東京大学医学部卒業。医学博士、東京大学名誉教授、日本学術会議前会長。現在は、内閣特別顧問、政策研究大学院大学教授、WHOコミッショナー、日本医療政策機構代表理事などをつとめる。